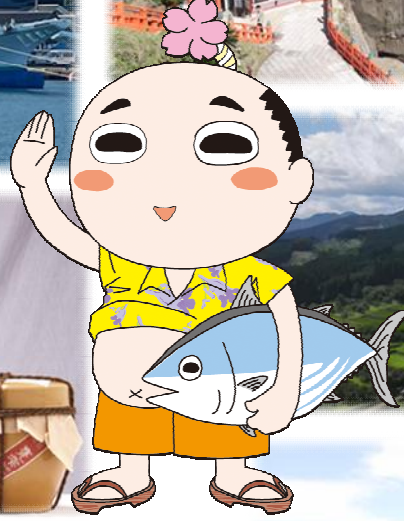


日南市観光振興計画 2026



令和8年3月
日南市

日南市観光振興計画 2026

目次

【第1章】 日南市観光振興計画の趣旨

1-1	計画の趣旨	1
-----	-------	---

【第2章】 日南市観光の現状と課題

2-1	観光入込客数の推移と宿泊者の割合	3
2-2	主要観光スポットと観光客の動向	5
2-3	観光消費額の推移	10
2-4	観光を取り巻く環境の変化	11
2-5	観光振興における課題	14

【第3章】 日南市観光の目指す将来像

3-1	将来像の設定	18
3-2	具体的ターゲット層と数値目標	19
3-3	観光ゾーニング	21
3-4	施策の展開と具体的な取組	24
3-5	推進体制	33

【巻末資料】

第1章 日南市観光振興計画の趣旨

1-1 計画の趣旨

(1) 計画の目的

本市では、豊かな自然や食、歴史文化遺産、そして地域の温かい人々が育んできた観光資源を活かした日南らしさの磨き上げを行い、観光客へとって魅力的な観光地づくりを目指すために、2015年（平成27年）3月に日南市観光振興計画を策定し、2024年度（令和6年度）を目標年度とする10年間、様々な観光施策を展開してきた。（巻末資料参照）

この期間、東九州自動車道（清武南IC～日南東郷IC）の開通や、新たな観光施設の整備等、誘客促進に繋がる事業を推進してきた一方で、新型コロナウイルス感染症の影響、ライフスタイルの多様化、デジタル技術の進展、さらには観光に対する価値観の変化等により、観光振興に求められる視点や施策の方向性は大きく変わってきている。

特に、新型コロナウイルス感染症による影響は、観光産業に非常に大きな打撃を与え、ポストコロナ社会における観光の在り方や役割を再認識することが必要である。

このような環境の変化の中で、多様な観光客に対応し、持続可能な観光地づくりを目指すためには、本市の魅力を最大限に活かした取り組みを地域住民や観光産業関係者等と一体となって推進していくことが重要であると考えます。

以上のことを踏まえ、社会情勢やニーズの変化に対応した観光施策を計画的かつ効果的に展開するための指針となる「日南市観光振興計画2026」を策定するものである。

(2) 計画の位置付け

本計画は、日南市重点戦略プランの実現のため、観光分野において根幹となる計画であり、関連する個別事業の総合的指針となるものである。

また、本市の他の分野の計画である、「港町油津景観計画」「城下町飢肥景観計画」「棚田の里酒谷景観計画」「油津の歴史文化遺産を活用したまちづくり計画」等とは並列の立場にあり、計画の整合性を図るものとする。

あわせて、多層的な歴史文化資源、山海の自然資源、スポーツ観戦や体験の拠点等が集積することなどから、南九州における観光拠点として本市が宮崎県観光に占める役割は極めて大きい。これらの背景を踏まえ、本計画は、宮崎県における観光振興計画を市の立場から進めていくためのものと位置付ける。

(3) 計画期間

本計画の期間は、2026年度（令和8年度）年度を初年度とし、日々変化していく社会情勢へ対応するため、計画期間を前回の10か年から5か年へ短縮し、2030年（令和12年）年度を目標年度とする。

ただし、本市観光状況の変化や市全体に共通する基本的な施策の変更があった場合等は、必要に応じて計画の見直しを行う。

(4) 計画の定義

本計画が対象とする「観光」の定義は、「既存の観光資源のみならず日南らしい生活文化に培われた様々な魅力を体験することを目的とし、域外から宿泊旅行や日帰りのお出掛け等で本市に人が訪れること」とする。

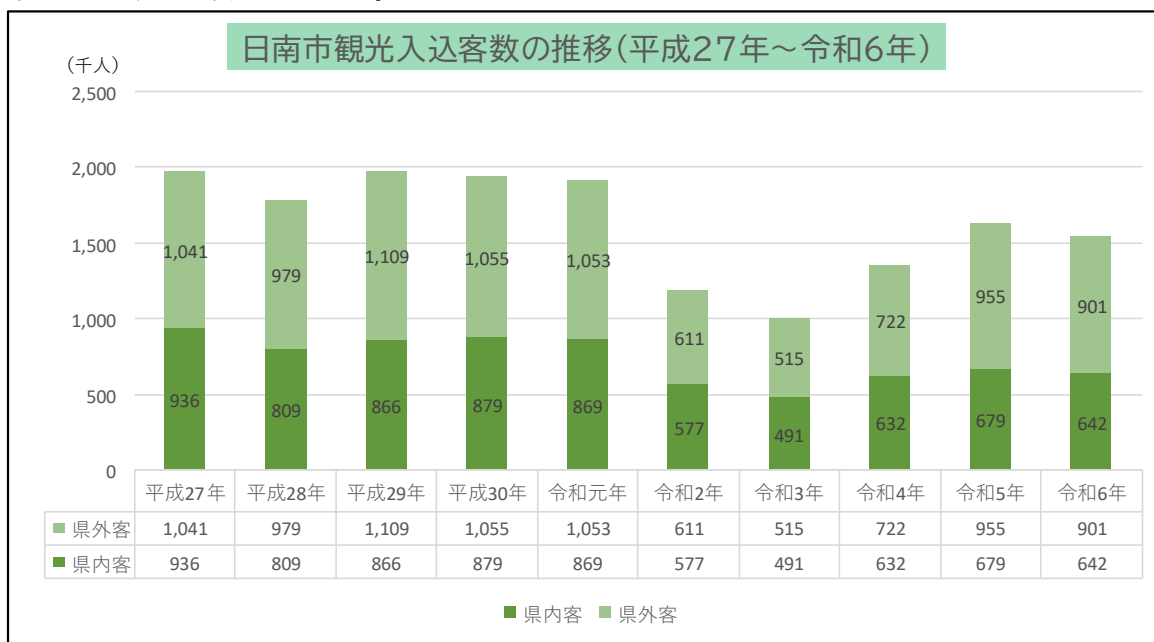
なお、行動の対象は、観光地訪問のほか、文化体験や自然体験、街並みの散策やスポーツ観戦、業務出張の前後や合間の観光、地元の人々との交流等を含むものとし、行動の主体には、他県だけでなく、県内の他市町村からの来訪者や市民が含まれる。

第2章 日南市観光の現状と課題

2-1 観光入込客数の推移と宿泊者の割合

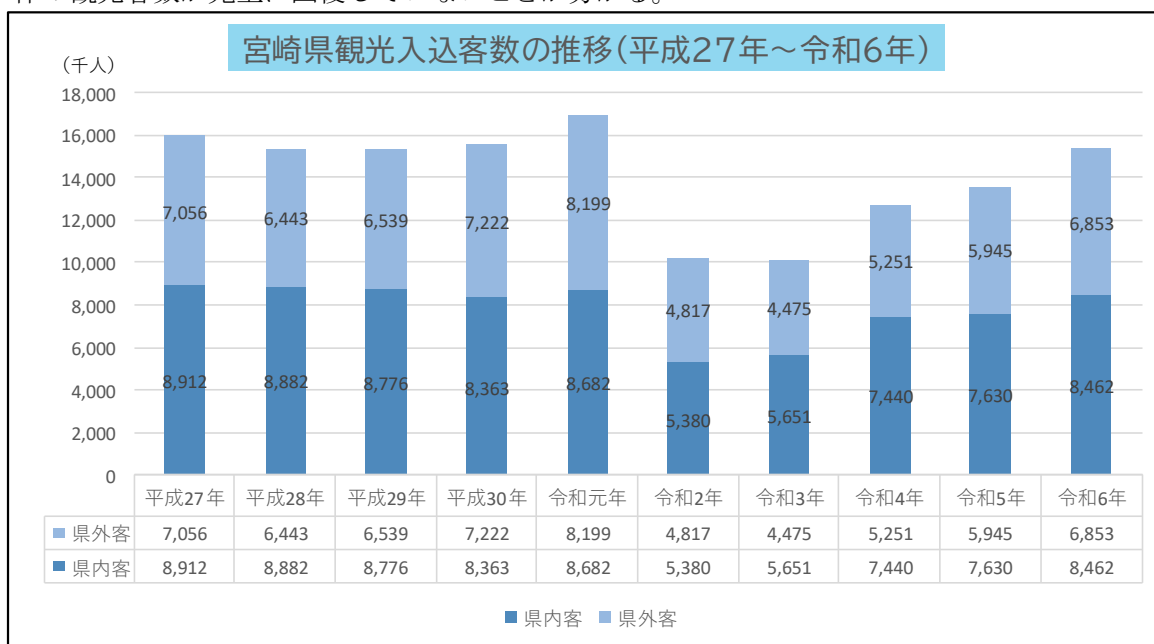
(1) 観光入込客数

近年の本市への観光入込客数の推移を見ると、令和2年から新型コロナウイルス感染症の影響により観光客が大きく減少し、徐々に回復傾向にはあるものの、令和6年時点でコロナ以前の水準には戻っていない。



■ 出典：日南市観光入込客数調査

宮崎県全体の観光入込客数と比較すると、年次ごとの増減はおおよそ比例しており、県全体の観光客数が完全に回復していないことが分かる。

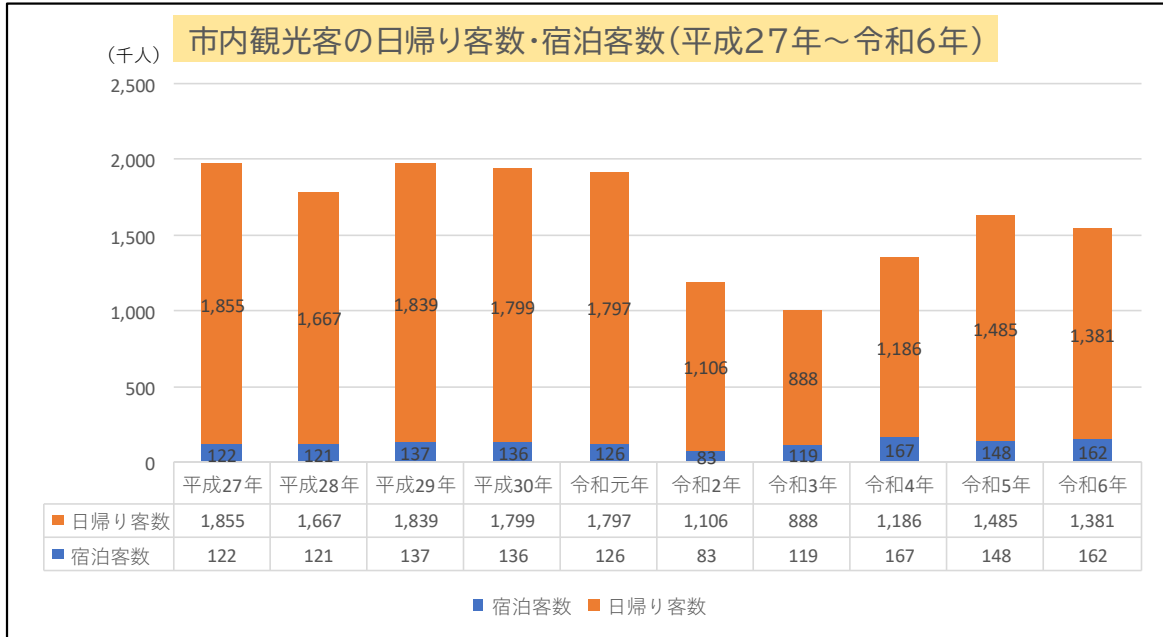


■ 出典：宮崎県観光入込客統計調査結果

(2) 日帰り客数・宿泊客数

本市は、冬期の温暖な気候により、プロスポーツチームのキャンプを行う地域として認知度が高い。これに伴い、キャンプ実施時期は、関係者や見学を目的とした来訪が非常に多く、1年を通して入込客数がとても多い時期である。

しかしながら、本市における観光は「日帰り・通過型」が主流となっているほか、プロスポーツチームキャンプ時期を除く宿泊施設の稼働率の低さ、夏期休暇や大型連休時期、ジャカルダシーズン等の観光ピークシーズン以外の賑わいの少なさが課題となっている。

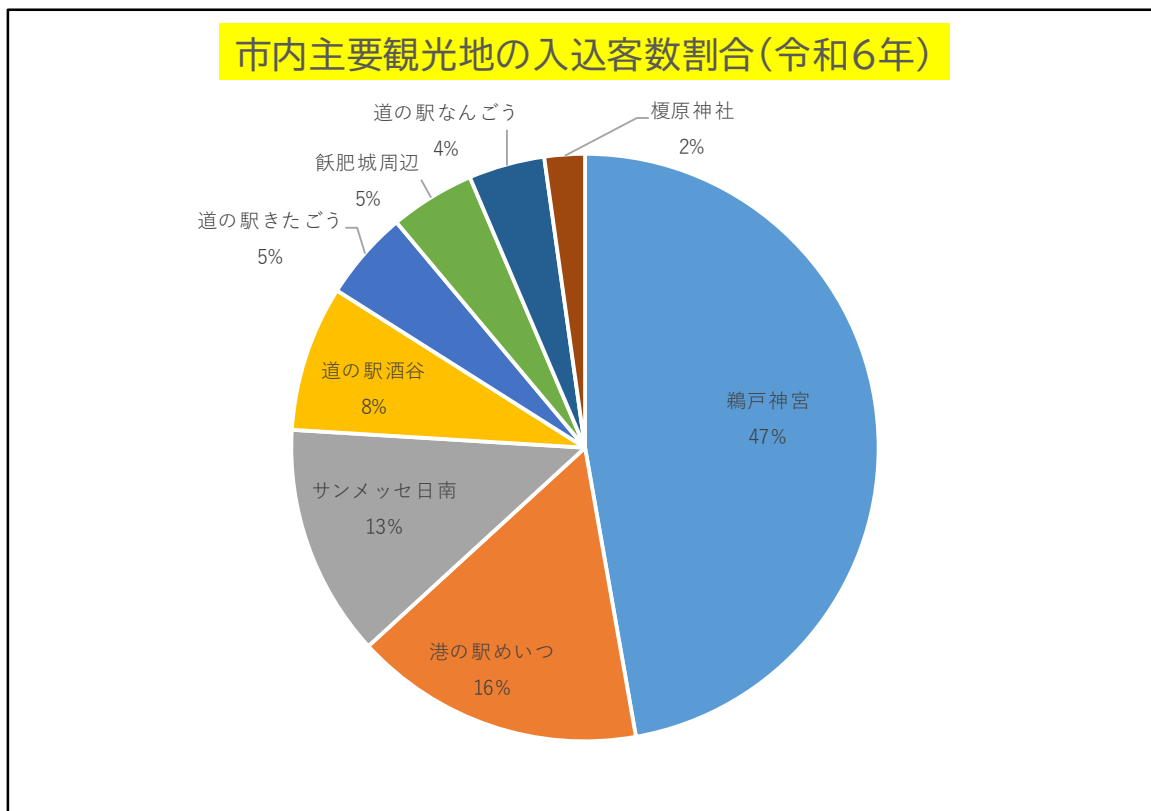


■ 出典：日南市観光入込客数調査

2-2 主要観光スポットと観光客の動向

(1) 主要観光スポット

本市の観光入込客数における主要観光スポットのシェアを上位から見ると、「鵜戸神宮」「港の駅めいつ」「サンメッセ日南」「道の駅酒谷」「道の駅きたごう」となっている。現状では、これらが本市の中心的な観光スポットとして位置づけられている。



■ 出典：日南市観光入込客数調査

(2) 日南市観光実態調査結果から見る観光客の動向

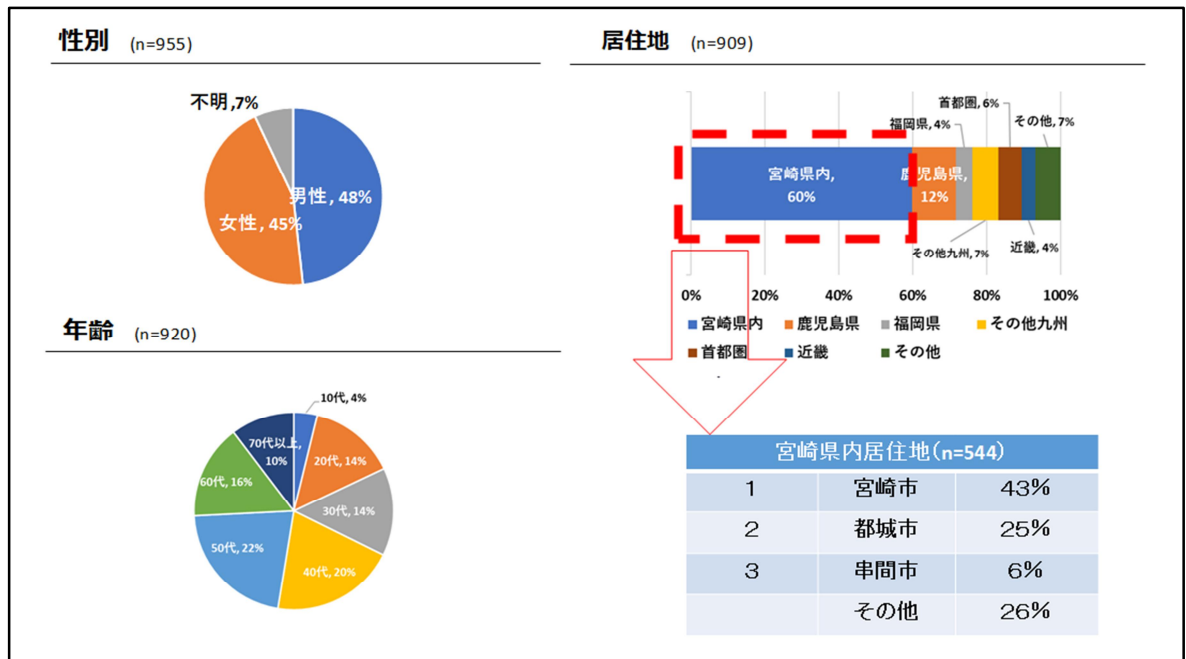
本市が令和6年度に行った「日南市観光実態調査」の概要及び結果は、次のとおりである。

●概要

調査対象者	市内の主要観光地に訪れた日本人観光客
調査手法	面接調査（無作為抽出）
調査地点	①鵜戸神宮 ②飫肥城 ③港の駅めいつ ④道の駅酒谷 ⑤道の駅きたごう
調査日	第1回：令和6年6月30日（日） 第2回：令和6年8月18日（日） 第3回：令和6年11月24日（日） 第4回：令和7年2月9日（日）
サンプル数	955サンプル

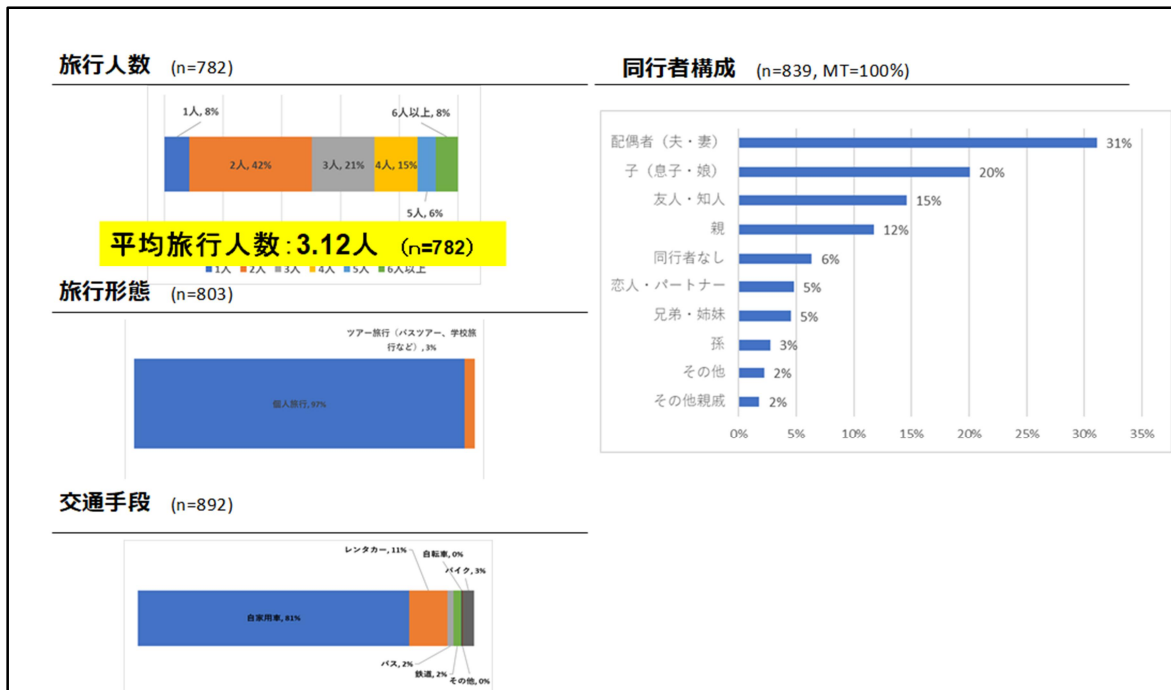
●結果

①性別・年齢・居住地



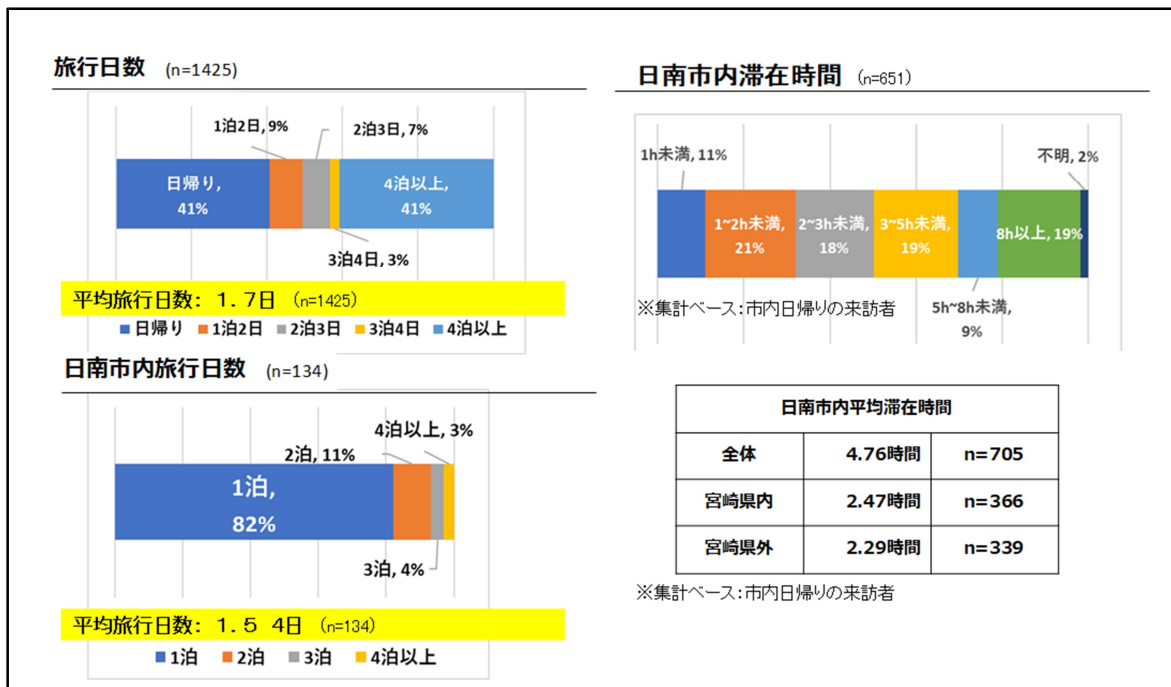
40代以上の来訪者が約7割を占めており、若年層の来訪者が少ない。

②旅行人数・旅行形態・交通手段・同行者構成



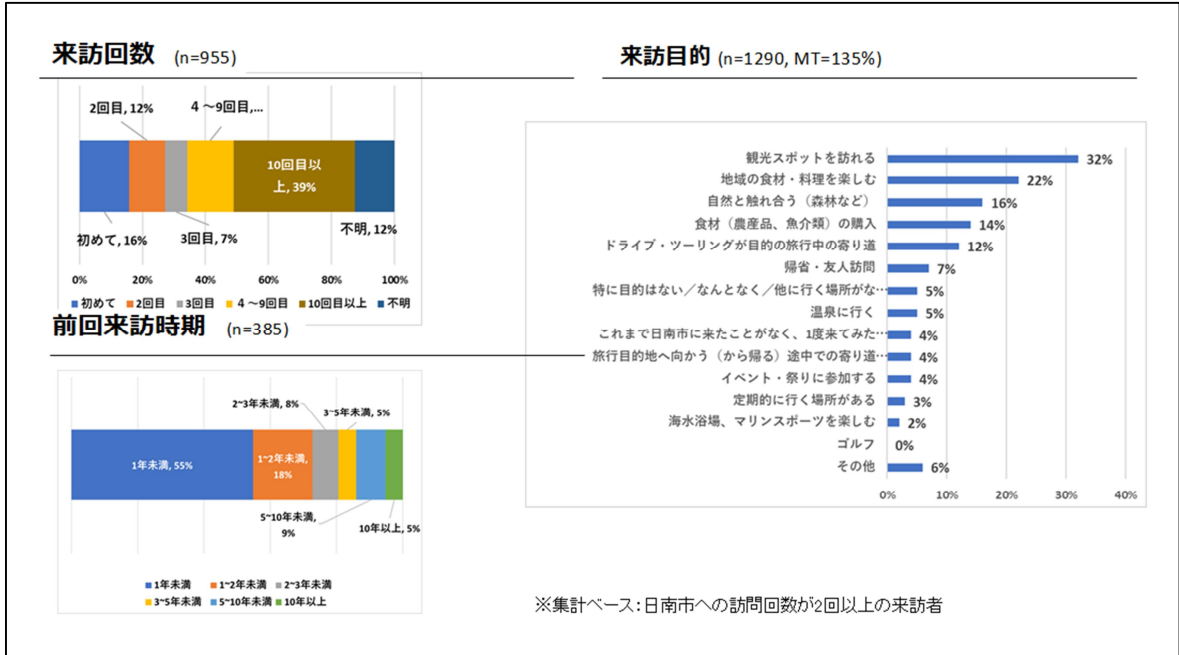
1人や2人等の少人数での旅行が多い。個人旅行客の割合が約9割以上となっており、旅行形態が個人旅行へシフトしてきていることが分かる。

③旅行日数・市内旅行日数・市内滞在時間



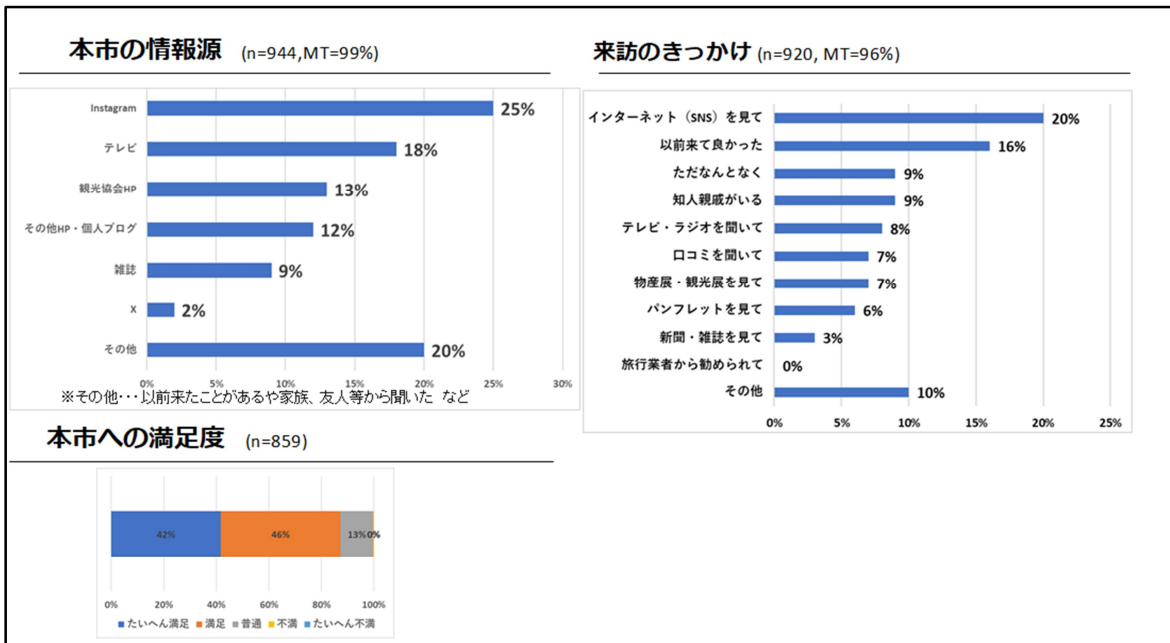
宿泊者数は全体の約6割であるが、市内宿泊者数の割合は、全体の1割未満である。

④ 来訪回数・前回来訪時期・来訪目的



リピーターが約8割を超えており、その約半数が10回以上も来訪している。また、前回の来訪から1年未満で来訪している方が約半数である。「観光スポット」や「食」「自然」を目的に来訪している方が多く、本市が誇る観光資源が魅力的であることが分かる。

⑤ 本市の情報源・本市への満足度・来訪きっかけ



インターネット等により本市の情報を収集し、来訪に繋がっていることが分かる。今後さらに観光情報のデジタル化に注力していく必要がある。

(3) おでかけウォッチャーから見る観光客の動向

「おでかけウォッチャー」で、高速道路開通前と開通後の主要観光スポットの前後の来訪地の上位3カ所は、次のとおりである。

●東九州自動車道清武南 IC～日南東郷 IC 開通前（令和3年）

順位	前の来訪地	観光地	順位	後の来訪地
1	サンメッセ日南	鵜戸神宮	1	サンメッセ日南
2	道の駅フェニックス		2	道の駅フェニックス
3	青島神社		3	青島神社
1	道の駅なんごう	港の駅めいつ	1	道の駅なんごう
2	道の駅フェニックス		2	道の駅酒谷
3	道の駅酒谷		3	道の駅フェニックス
1	道の駅フェニックス	サンメッセ日南	1	道の駅フェニックス
2	鵜戸神宮		2	鵜戸神宮
3	フェニックス・シーガイア・リゾート		3	フェニックス・シーガイア・リゾート
1	港の駅めいつ	道の駅酒谷	1	港の駅めいつ
2	道の駅フェニックス		2	道の駅フェニックス
3	道の駅なんごう		3	道の駅なんごう
1	オープン前	道の駅きたごう	1	オープン前
2			2	
3			3	

●東九州自動車道清武南 IC～日南東郷 IC 開通後（令和6年）

順位	前の来訪地	観光地	順位	後の来訪地
1	道の駅フェニックス	鵜戸神宮	1	サンメッセ日南
2	サンメッセ日南		2	道の駅フェニックス
3	青島神社		3	青島神社
1	道の駅きたごう	港の駅めいつ	1	道の駅きたごう
2	道の駅なんごう		2	道の駅なんごう
3	道の駅フェニックス		3	道の駅フェニックス
1	道の駅フェニックス	サンメッセ日南	1	鵜戸神宮
2	鵜戸神宮		2	道の駅フェニックス
3	青島神社		3	宮崎空港
1	道の駅きたごう	道の駅酒谷	1	道の駅きたごう
2	港の駅めいつ		2	港の駅めいつ
3	道の駅なんごう		3	飫肥城
1	港の駅めいつ	道の駅きたごう	1	日南北郷カントリークラブ
2	日南北郷カントリークラブ		2	港の駅めいつ
3	天然温泉ひなたの宿日南宮崎		3	道の駅酒谷

■出典：おでかけウォッチャー

東九州自動車道（清武南 IC～日南東郷 IC）開通前は、「道の駅酒谷」の来訪前後に「道の駅フェニックス」が入っていたが、開通後は入っていない。これまでは、日南海岸を通るルートでの来訪が一般的であったが、高速道路を利用したルートが増えたことが推測される。

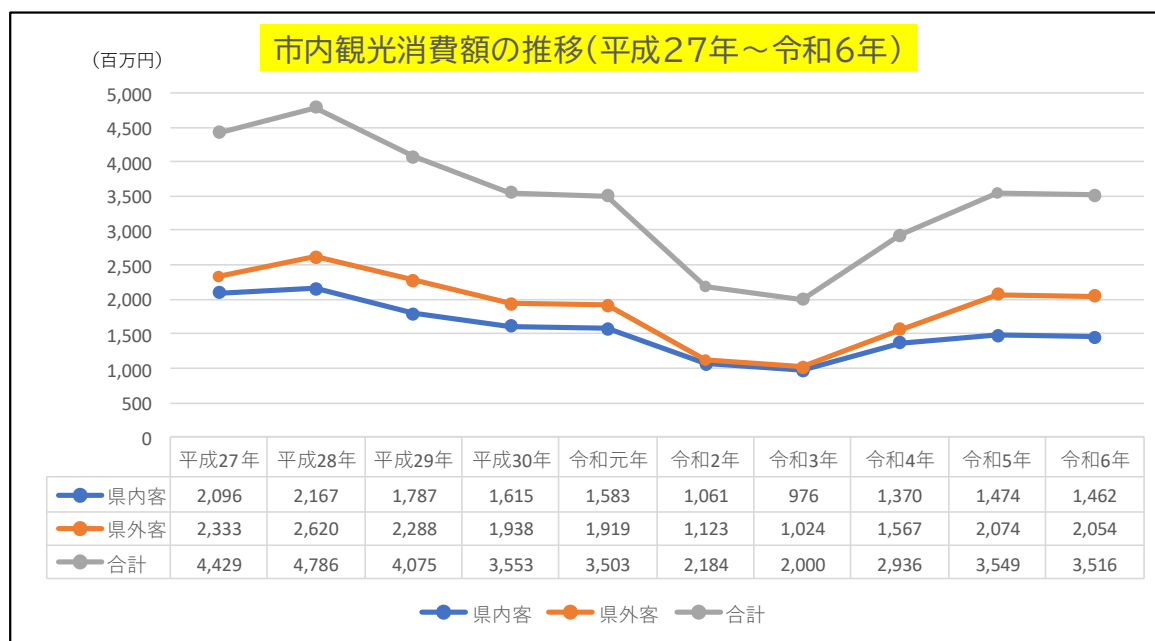
また、高速道路の利用に伴う移動時間の短縮により、観光地での滞在時間の延長やその他の観光地への周遊が期待される。

2-3 観光消費額の推移

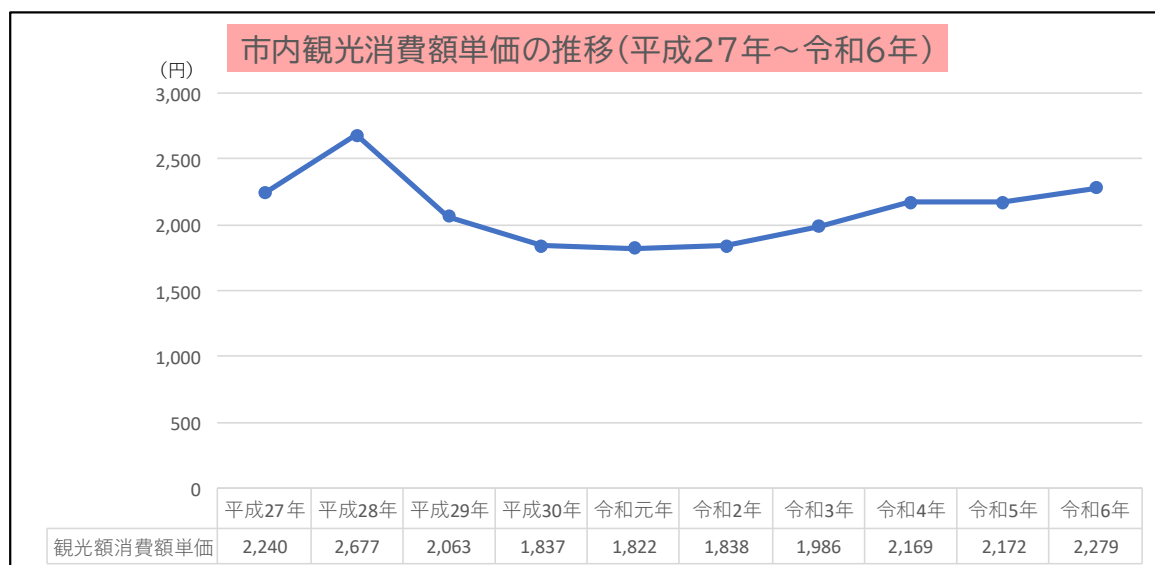
本市の観光消費額においても、観光入込客数と同様に、消費額合計、消費額単価ともに令和2年から新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少し、徐々に回復傾向にはあるものの、令和6年時点でコロナ以前の水準には戻っていない。ただし、近年の物価高騰により、消費額単価はさらに増加していくと思われる。

今後は、宿泊を伴う旅行等により、滞在時間の延長を促進することで、1人あたりの観光消費額を高めていく取組が必要である。

(1) 観光消費額



(2) 観光消費額単価



■ 出典：日南市観光実態調査

※集計ベース：市内で消費行動を行った来訪者（昼食代、土産購入代、施設入場料、体験参加代、その他買物代の合計）

2-4 観光を取り巻く環境の変化

(1) 新型コロナウイルス感染症による旅行形態の変化

新型コロナウイルス感染症により、令和2年以降、国内外からの旅行者数は大幅に減少した。本市においても、観光入込客数は、令和元年には約192万人であったが、令和3年には約100万人まで減少した。

さらに、観光消費額は、令和元年は約35億円であったが、令和3年には約20億円まで減少し、地域経済に大きな影響を及ぼした。

少しずつ回復傾向にはあるものの、コロナ禍以前の水準には戻っていないため、より観光客を呼び込む工夫が求められている。

(2) 旅行形態・観光ニーズの多様化

本市を訪れる観光客の旅行形態は、団体旅行から個人旅行へとシフトしてきており、さらに、コロナ禍以降はその傾向がより強まっている。

宮崎県における県外からの旅行者の人数の割合を見ると、令和元年は「1人」での旅行者の割合が5.9%ですが、令和6年には10.4%まで増えている。

個人の興味や関心といった旅行ニーズに対応するために、これまでの観光資源を見直し、磨き上げを行っていくことが重要である。

宮崎県内への観光客の旅行人数

	1人	2人	3～5人	6人以上
R元年	5.9%	42.2%	42.0%	10.0%
R2年	7.7%	40.7%	45.0%	6.6%
R3年	9.1%	42.4%	42.2%	6.2%
R4年	8.3%	42.9%	41.9%	6.9%
R5年	9.9%	41.5%	40.4%	8.2%
R6年	10.4%	41.1%	41.3%	7.2%

■出典：宮崎県観光入込客統計調査結果

(3) インバウンド（クルーズ船の寄港を含む）受入数の低迷

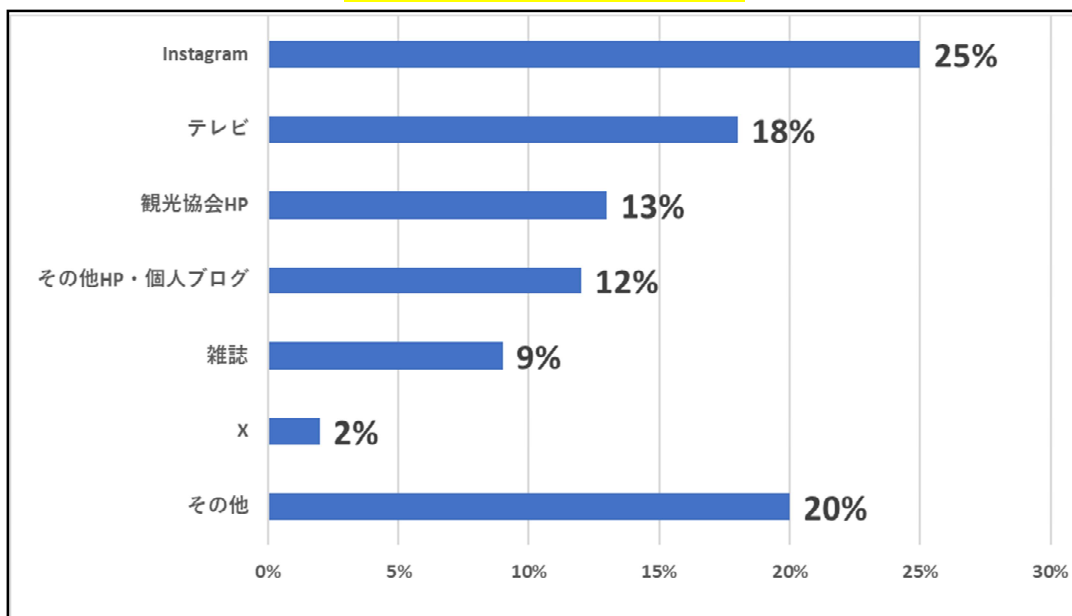
新型コロナウイルス感染症の影響により、日本の外国人観光客数は大幅に減少した。アフターコロナにおいては全国的に回復し、今後、さらに増加していくことが見込まれる。オーバーツーリズムが問題となっている地域もある中、本市においては、受入数の低迷が続いており、インバウンド受入体制の強化やインバウンドへ向けた情報発信に注力していく必要がある。

(4) デジタル化の進展

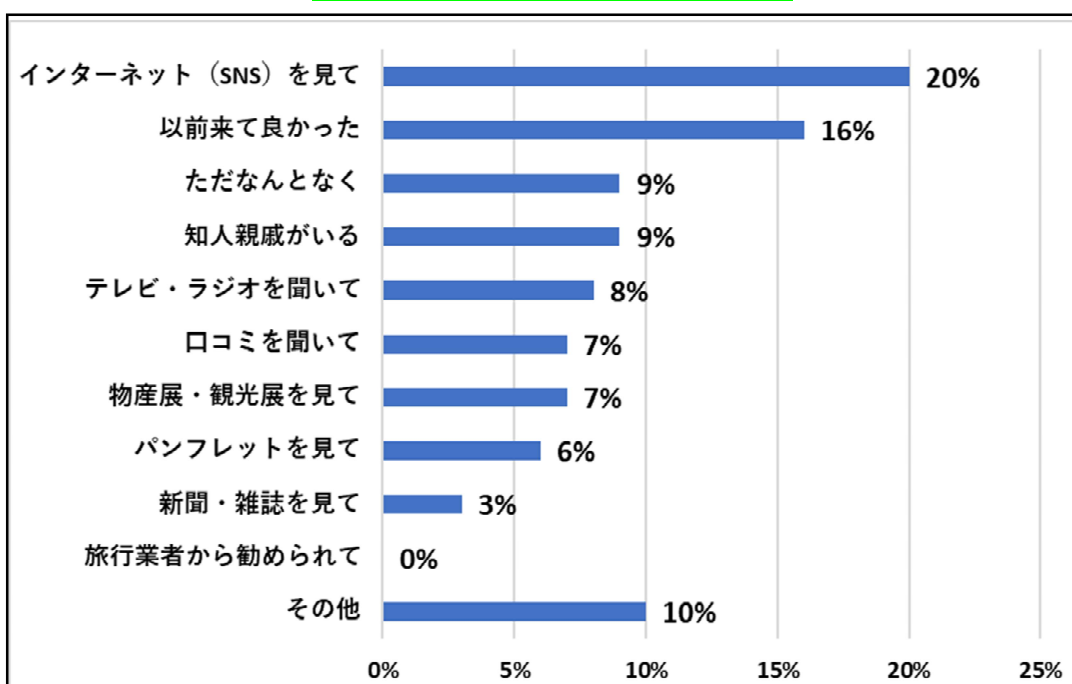
旅行前の情報収集や予約、旅行中のコンテンツ探し、写真撮影、そして、旅行後のSNSへの投稿等、観光面においてもデジタル化が急速に進んでいる。

本市においても、SNSを見て情報収集をした上で来訪を決めたという観光客の割合が増加傾向にあり、これまでのパンフレットやテレビでの情報発信等に加え、インターネットやSNS等を有効活用して、より早く、多くの観光客に情報を届けることが求められる。

日南市の情報源(令和6年)



日南市来訪のきっかけ(令和6年)



■出典：日南市観光実態調査

(5) SDGs に対する意識の高まり

観光客、観光産業関係者、受け入れ側にとって、「環境」「文化」「経済」の観点で、持続可能かつ発展性のある観光を目指す、SDGs を意識した、サステナブルツーリズムへの取り組みが重要となっている。




2-5 観光振興における課題

(1) 観光振興のために達成すべきこと

本市は、豊かな自然資源や歴史文化資源、それらを背景として育まれてきた景観等に対する観光客の評価が高い。関連する一次産業、二次産業等の生活文化資源が多く存在することを加味すると、本市は極めて多様で、多層的な資源を有している複合的な観光地であるという特徴を持ち、本市を認知した人が興味を持つ比率が高い一方で、興味を抱いた人が具体的な来訪の計画に踏み込む割合が低いことが課題となっている。また、目的地以外への立ち寄りやそのための情報収集が少ないまま当初目的地や宿泊地に向かっており、滞在時間が短いことが観光客満足度の低さ、地域との関係性構築の薄さ、消費額単価の伸び悩みに繋がっている状況にある。

このような現状に対し、本市への観光入込客数並びに観光消費額を増加させ、観光を契機とした市内経済を活性化させるためには、多様化する観光客のニーズに対応できる満足度の高い上質な旅行への転換を図ることが重要であり、次の3つの事項を達成する必要がある。

① 観光客の満足度向上 による来訪意欲の創出	② 国内外からの新規顧客 開拓	③ 市内滞在時間の延長
観光客の事前の期待に応え、それを上回る満足度の創出に向け、観光資源の磨き上げや、受入体制の整備を推進するとともに、地域の魅力を効果的に発信することで、観光地としての印象を強化し、リピーター客の増加を促進すること。	本市をまだ訪れたことのない観光客に対し、個人の興味、関心といったニーズを的確に捉え、魅力ある情報を適切なタイミングで伝達することで、本市の認知度を拡大を図り、来訪を促進すること。	市内に滞在中の観光客に対し、同行者や交通手段、来訪目的別の行動形態や情報・体験等に関するニーズを的確に捉え、適切な場所・タイミングで市内の魅力伝達を行い、市内での回遊を促進すること。



日南らしい「特徴・強み」を活かし、具体的な課題解決を図る。

前述の①～③を達成するため、本市の観光が国内の競合観光地と比較した際に質の高いものであり、日南らしさと言える「特徴・強み」を明確に打ち出していくことが重要である。

日南らしさを構成する要素	特徴・強み
① 温暖な気候と美しい自然資源	<p>海洋景観の素晴らしさのみならず、温暖な気候や地理的環境を背景とした多様なマリンアクティビティを提供できるとともに、豊富な海の幸に恵まれている。</p> <p>また、季節ごとの景観を楽しめる雑木林、飫肥杉の植林景観、棚田の里山景観や温泉等、山の景観そのものや、山とともに暮らしてきた人々の生活文化などの「昔懐かしい景色・文化」を色濃く残す地域や、まち歩きを通じて過去から現在に至るまでの景観や生活を垣間見ることのできる地域が混在している。自然環境の奥深さと、自然とともに暮らしてきた人間の営みが現代にまで継承されている。</p>
② 多層的な歴史文化遺産	<p>飫肥藩による地域密着型の人づくりや経済活動に端を発する、油津の堀川運河を中心とした林業や漁業の拠点としての発展、城下町の文化、醸造の文化、伝統的な食文化、日本の商工業を支えてきた様々な工場の立地など、歴史的な営みの系譜を現代でも遺構や景観のなかに確認することができる。</p> <p>これに加え、鶴戸神宮、駒宮神宮、吾平津神社(乙姫神社)、潮嶽神社といった海幸彦・山幸彦にまつわる神話の舞台となった歴史的資源が多く残っている。</p>
③ 伝統的な食文化と豊かな自然が育んだ海の幸・山の幸	<p>本市には、飫肥藩の歴史とともに伝わる郷土料理や日本農業遺産である「日南かつお一本釣り漁業」を背景とする伝統的な食文化と、温暖な気候と豊かな自然が育んだ水産物、農産物等、多数の食の魅力が存在し、本市を訪れる観光客の来訪目的の大半を占めている。</p>
④ 人々のあたたかい気質が生む自然体のおもてなし	<p>温暖な気候と豊かな自然に育まれてきた、人々のあたたかい気質そのものが、地域の特性を強く裏付けている。マニュアル化されていない自然体でありながら、観光客を「お客様」としてだけでなく「初めて会う友人」として迎え、観光客に対して心あるおもてなしを提供することができる。</p>

(2) 観光振興における具体的課題

① 周遊促進と滞在時間の延長

本市は歴史文化遺産や自然景観等の観光資源を核とした南九州エリア有数の観光地であるが、観光客の多くは「日帰り・通過型」となっており、市内滞在時間が伸び悩んでいる。その原因のひとつとして、観光客が効率的に観光地を巡る手段や情報が整備されていないことがあげられる。

観光客の市内滞在時間の延長を図り、観光消費額の拡大を目指すためには、観光地間の面的な周遊を促進する取組が必要である。

② デジタル化の推進と情報発信力の強化

観光客の旅行における情報源や、来訪を決める手段として、SNSでの口コミや広告からの情報収集が増加している。従来のパンフレットやイベントでのブース出展によるPR活動、テレビCMや情報番組での情報発信に加え、インターネットやSNS等によるデジタルプロモーションを強化していく必要がある。また、周遊促進への取組として、観光地を結ぶ周遊ルートのご案内や滞在中の観光客への適切な情報伝達を推進することも重要である。

③ 観光産業を支える人材の育成

本市の観光を推進するためには、多層的な観光資源の磨き上げやその資源の体験コンテンツ化、さらにそれを広く発信するとともに、持続・発展させることが可能な人材の育成が必要である。また、観光産業関係者と、その他の事業者や団体等が連携し、他産業における観光への理解向上を図るとともに、観光客へのおもてなしの意識を醸成することが重要である。

④ 多様な観光客に対応できる受入体制の充実

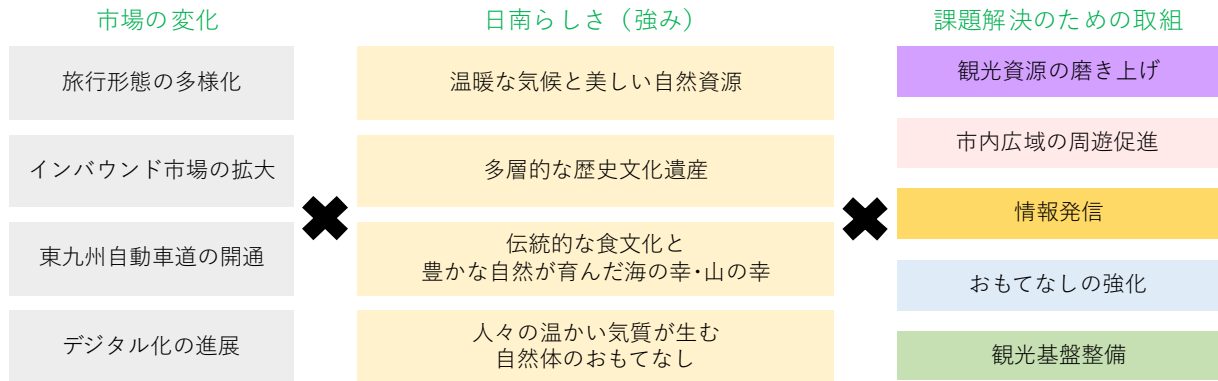
昨今のコロナ禍やインバウンドの増加、SDGsへの意識の高まり等により観光客のニーズは多様化してきており、それに伴う受入体制の充実が求められている。

障がいがある方や高齢者、外国人等、本市を訪れたすべての観光客が、安全・安心で快適な旅行を楽しむために、観光地や宿泊施設、飲食店等における多言語化や環境整備等を推進していくことが必要である。

また、本市は、自家用車以外での観光客の回遊利便性が低いことが課題となっており、公共交通機関を利用して、便利に移動できるための情報提供や、交通事業者と連携した取組の検討が必要である。

(3) 観光産業の発展に向けた取組

本市の観光の核となる「日南らしさ」を強みとして、前章に挙げた課題を解決することによって、本市の観光が従来とは異なる新たな構造を持つ産業として成長・発展する可能性は大きい。以下にあげる項目等を組み合わせ、市場の開拓可能性やニーズを的確に捉えながら、本市の強みを活かし、課題を解決していく先に、観光産業を通じて地域が発展する将来像を描く。



第3章 日南市観光の目指す将来像

3-1 将来像の設定

(1) 観光振興における基本方針

『行きたい、また戻ってきたい』選ばれるまち 日南

～何度でも訪れたくなる、感動とぬくもりに出会える観光地づくり～

本市が目指す観光は、日南市重点戦略プラン2025のコンセプトである「創る。挑む。」の理念に則り、本市の強みを最大限に活かしながら、選ばれる観光地づくりを進めるとともに、地域経済と市民生活の質の向上を図るため、観光産業を支える担い手を育み、観光を通じて地域が中長期的に活性化することで、持続可能なまちを「創る」ことである。

① 観光産業の発展

市場ニーズの多様化・細分化、市場の高齢化や国際化の進展といった社会経済環境の変化に対応し、観光を発展性の高い成長分野として戦略的に位置づけ、観光産業を核として様々な産業がともに発展することを目指す。観光客と市民との自然な交流を促進し、市民が誇りとやりがいを感じられる観光地づくりを進め、魅力あるまちづくりに繋げる。

② 地域資源の磨き上げによる満足度の向上

本市観光の最も大きな強みは、現代まで守られてきた豊かな海洋資源や森林資源と、それらに育まれてきた歴史・文化・産業が多層的に存在し、多様なニーズを有する観光客を様々な側面から楽しませることができる点にある。このような本市の奥深く多層的な魅力を磨き上げ、自然・食・歴史・人となりが一体となった地域資源をストーリー性をもって発信し、あたたかく自然体なおもてなしで、確かな満足と驚きと感動、ぬくもりと安らぎを提供することで、「何度でも訪れたくなる、感動とぬくもりに出会える観光地」として、観光客と地域住民の双方から「選ばれ続ける」持続可能な観光地になることを目指す。

3-2 具体的ターゲット層と数値目標

(1) ターゲット市場の居住地・誘致圏

これまで、本市は、再訪のしやすさ、情報の届きやすさ等を理由に、県内・近隣県からの観光客を重点ターゲットとし、実際に本市を訪れる観光客の大半を占めている。加えて、近年は、全国的に外国人観光客の増加が著しく、本市においては、クルーズ船の寄港に伴う外国人観光客も含め、次のとおりターゲットを設定する。

ターゲット層	市内での移動手段（想定）
県内からの来訪 ★重点	自家用車
九州圏からの来訪 ※ツアー客を含む ★重点	観光バス、自家用車、公共交通機関
クルーズ船乗船客 ※外国人観光客を含む ★重点	観光バス、公共交通機関、レンタカー
その他県外からの来訪 ※ツアー客を含む	観光バス、公共交通機関、レンタカー
海外からの来訪 ※ツアー客を含む	観光バス、公共交通機関、レンタカー

(2) 同行者・来訪目的

観光の目的や具体的行動は、同行者により大きく左右される。観光客の属性を性別、年齢だけでなく様々なタイプで想定し、観光の目的や嗜好性に沿った本市での観光の楽しみ方を幅広く提供する必要がある。

同行者	来訪目的
<ul style="list-style-type: none"> ・夫婦 ・カップル ・ファミリー ・友人 ・同僚 ・外国人 ・ひとり ・団体旅行 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地 ・体験プログラム ・ドライブ ・食べ歩き ・歴史文化観光 ・温泉 ・ゴルフ、サイクリング、サーフィン等 ・スポーツ観戦 ・スポーツ合宿 ・ビジネス

(3) 将来目標数値の設定

本計画では2030年度（令和12年度）の本市における観光の将来目標数値について、次の4項目を設定する。

項 目	目標数値
① 観光入込客数	163万人（2023年（令和5年）） →205万人
② 観光消費額	35.5億円（2023年（令和5年）） →49.5億円
③ 市内宿泊者数	14.8万人（2023年（令和5年）） →18.3万人
④ 日帰り観光客の市内平均滞在時間	4.3時間（2023年（令和5年）） →4.7時間

※1 ①～③は、日南市重点戦略プラン2025における重要業績評価指標による。

※2 ④の令和5年指標は、日南市観光実態調査による。

※3 ④の目標数値は、東九州自動車道（清武南IC～日南東郷IC）の開通により短縮された移動時間が市内滞在時間へシフトすることを見込み、宮崎市から日南市までの移動時間の短縮分（0.4時間）を上乗せする。

【参考】本計画期間内に予定されている本市における主要イベント・行事等

主要イベント・行事等	実施（完成）予定年度
ツール・ド・九州	令和8年度
南郷大島魅力創生プロジェクト事業	令和8年度
日本のひなた宮崎 国スポ・障スポ	令和9年度
飫肥城下まつり 50周年	令和9年度
日南市飫肥伝統的建造物群保存地区 選定50周年	令和9年度
（仮称）油津歴史資料館オープン	令和9年度

《その他》東九州自動車道 油津IC開通（予定）

3-3 観光ゾーニング

(1) 観光ゾーニングの目的と位置付け

本市の観光ゾーニングは、都市計画およびその他既存計画を踏まえながら、観光の視点で面としての観光機能や観光利用の方向を設定するものである。それぞれ特色のある個々の地域（ゾーン）の風土や優位性を最大限に活かすとともに、ゾーンの特色を明確に際立たせることにより、市場に「過ごし方のストーリー」をより分かりやすく伝達することが可能となる。

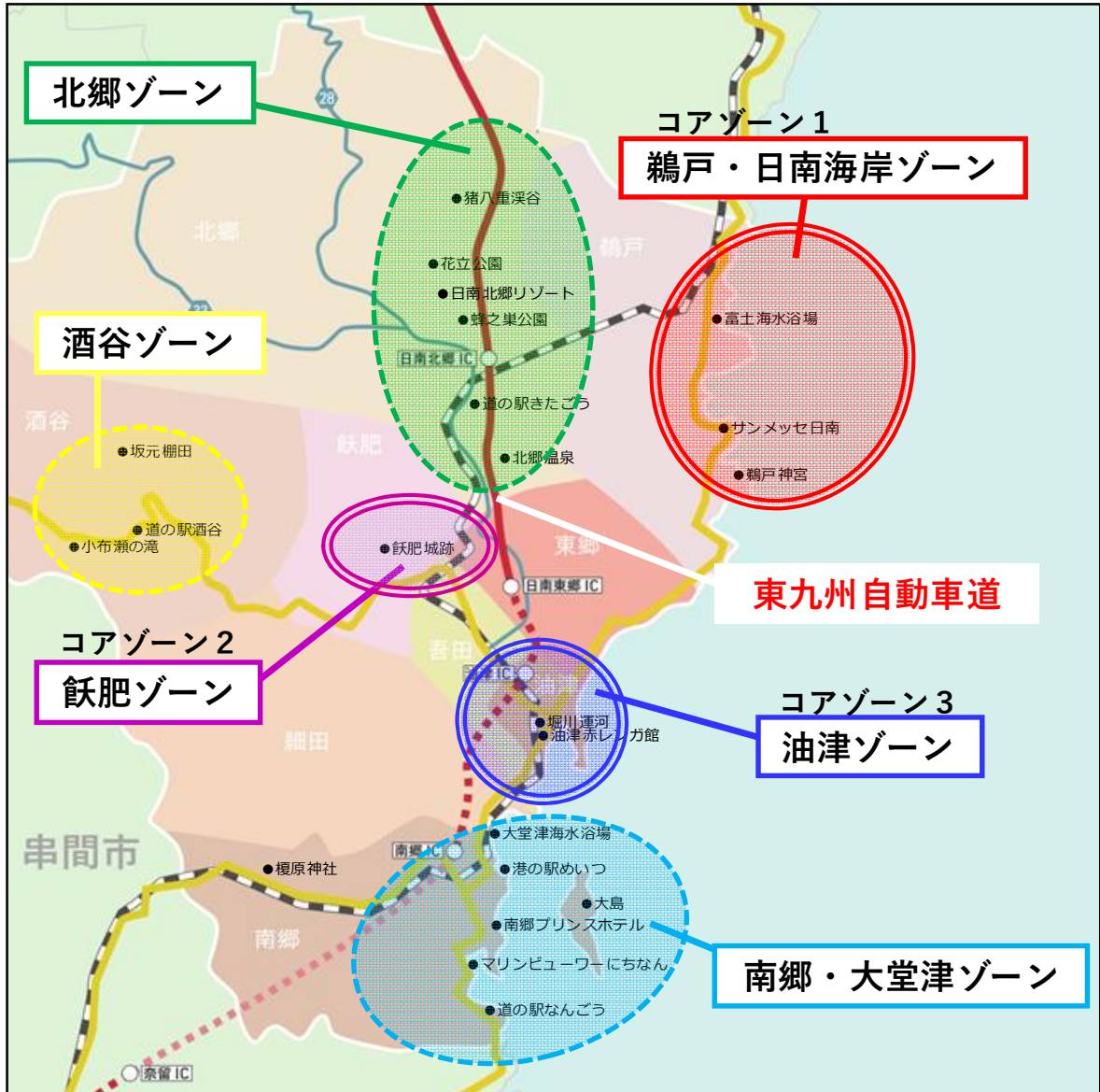
(2) 観光ゾーニングの基本的な考え方

- ① 観光ゾーニング区分は観光機能面において重点的に機能を担うエリアを指し、そのエリアに設定されてない他地区においても観光資源の保護充実を行う。
- ② 地域独自の歴史文化資源や自然資源の保全を重視しつつ、それらと共生した観光利用を目指す。
- ③ 観光客が多く来訪する従来の観光資源（飫肥地区・鶴戸地区等）や中心市街地（油津地区）を、コアゾーンとしながら、東九州自動車道開通による新たな周遊ルートもモデルルートに加え、観光ゾーニングを面的な周遊に活かすための情報連携や送客体制を構築し、その途上に日南らしい生活文化に触れられるスポットへの支線を巡らせる。
- ④ 観光ゾーニングは機能の方向性と共に、日南らしい景観・風景の醸出も踏まえたものとする。

(3) 観光ゾーニング区分

ゾーン区分	観光機能	観光資源（例）	具体的コンテンツ（例）
【コアゾーン1】 鵜戸・ 日南海岸ゾーン	日南海岸沿いの美しい眺めを楽しみつつ、鵜戸神宮を中心とした沿線に点在する観光資源を巡るゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・鵜戸神宮 ・サンメッセ日南 ・富士海水浴場 ・日南海岸国定公園 	<ul style="list-style-type: none"> ・神宮参拝 ・海岸線の眺望 ・日南海岸ドライブ ・海水浴 ・サーフィン ・サイクリング ・伊勢えび料理
【コアゾーン2】 飫肥ゾーン	飫肥城跡をメインに、城下町の散策や地域の文化・食を楽しむゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・飫肥城跡 ・飫肥城由緒施設等 ・伝統的建造物群保存地区 	<ul style="list-style-type: none"> ・飫肥城跡、由緒施設めぐり ・城下町の食べ歩き、まち歩き ・季節のイベント体験
【コアゾーン3】 油津ゾーン	堀川運河周辺や油津赤レンガ館、夢ひろば、商店街等を巡るまち歩きと賑わいを楽しむゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・堀川運河 ・堀川橋 ・油津赤レンガ館 ・夢見橋 ・花峯橋 ・(仮称) 油津歴史資料館 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内観光のハブ機能 ・歴史や景観を楽しむまち歩き ・中心市街地での買い物と飲食
南郷・ 大堂津ゾーン	大島の自然の魅力や道の駅なんごう、港の駅めいつを中心とした食べ物等を通して南国らしさを感じられるゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・大島 ・港の駅めいつ ・道の駅なんごう ・マリンビューワーにちなん ・大堂津海水浴場 ・栄松ビーチ ・日南海岸国定公園 	<ul style="list-style-type: none"> ・大島散策 ・ジャカランダ ・水産物やトロピカルフルーツの購入・飲食 ・水中観光船 ・港や市場の見学 ・海水浴 ・マリンスポーツ ・醸造蔵巡り
北郷ゾーン	北郷温泉や森林に囲まれた豊かな自然環境を活かした観光体験を提供するゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・花立公園 ・猪八重溪谷 ・北郷温泉 ・道の駅きたごう ・蜂之巣公園 	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉巡り ・森林セラピー ・花立公園の桜 ・農作物の収穫体験 ・ゴルフ
酒谷ゾーン	道の駅酒谷を拠点として、坂元棚田等周辺の景観資源を体感するゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・坂元棚田 ・小布瀬の滝 ・道の駅酒谷 	<ul style="list-style-type: none"> ・棚田・滝等の見学 ・キャンプ ・農産物の購入・飲食

(4) 観光ゾーニング区分イメージ図



3-4 施策の展開と具体的な取組

本市観光の課題を解決し、目標を達成するため、次の5施策を軸に具体的取組を展開する。

施策の展開 1 多層的な観光資源の磨き上げ

本市は、恵まれた山海の自然資源や多層的な歴史文化遺産を有する観光地である。観光資源の魅力を向上させるとともに、体験コンテンツの充実を図り、滞在型観光の推進を行っていく。同時に、これらの資源の結びつきやストーリー化を通じて、上質な「日南らしさ」を演出し、観光客の満足度を向上させる。

個別施策 1 既存資源の利活用と磨き上げ

▼具体的取組① 歴史や自然、神話等を組み込んだ体験コンテンツの充実

飴肥城下町や、油津の街並み、歴史文化遺産の魅力、豊かな海洋資源や山林資源、海幸彦・山幸彦等まつわる神話の舞台、温泉等、ゾーン毎の観光資源の魅力を最大限に活用した体験プログラム等の充実を図る。

▼具体的取組② ガストロノミーツーリズムの推進

本市には、「日南かつお一本釣り漁業」をはじめとする水産物、マンゴー、柑橘類等のトロピカルフルーツ、飴肥の天ぷらや厚焼きたまご、魚うどん、焼酎等、様々な特産品がある。既存の特産品や、伝統的な食文化の価値を再認識するとともに、市公認ご当地グルメである「日南一本釣りカツオ炙り重」等、日南ならではの食文化を観光資源として活用していく。

▼具体的取組③ スポーツランド日南の推進

本市には、プロスポーツキャンプの観戦や、スポーツ合宿、サーフィンやダイビング等のマリンスポーツ、サイクリング等、スポーツを目的に多数の観光客が訪れる。加えて、2027年に本県において開催される、国スポ・障スポを見据え、受入体制の強化とともに、観光客に対し、快適な滞在環境のみならず、より特別感の高い体験を提供することや、健康づくり・癒しをテーマとしたコンテンツを拡充することにより、「スポーツランド日南」としてのブランド力を向上させる。

▼具体的取組④ 観光産業関係者との連携によるコンテンツ造成

交通・宿泊・飲食等の事業者や、旅行会社等と連携した旅行商品の造成や支援等を行い、観光客の滞在時間延長を目指す。

個別施策2 新たな資源の活用と商品化の推進

▼具体的取組① シーズン以外の観光施設の有効活用

海水浴場や桜の名所等、シーズン以外は観光客の関心が低い場所を、年間を通して観光資源としての活用ができる取組を検討する。

▼具体的取組② 地元に還元できる循環型商品の開発

地元事業者や市に還元できる、観光資源を活用した循環型商品の開発を検討する。

施策の展開 2 市内外への情報発信強化

本市への来訪可能性が高いターゲット層へ向け、滞在・交通情報をはじめ、観光資源の魅力を的確に届けることで、来訪意欲を喚起するとともに、滞在中の観光客に対しても、必要な情報を適切に発信し、滞在時間の延長を図る。また、市内だけでなく周辺市町村の観光地と連携し、本市をひとつの核とした広域観光推進のための情報連携体制を強化する。

個別施策1 ターゲットや時代に沿った効果的なプロモーション体制の強化

▼具体的取組① 世代や居住地、目的に合わせたプロモーション

ターゲット層の居住地や旅行形態、同行者、来訪目的ごとの本市の滞在ニーズ・体験ニーズを把握し、それに応える情報の発信を行うことで、ターゲット層の来訪意欲を喚起するとともに、リピーター客の増加を図る。

▼具体的取組② 市内滞在中の観光客への適切な情報発信

市内に滞在中の観光客の利便性を高めるため、交通情報や観光情報を適切な場所において、多様なツールを活用して情報を発信できる仕組みの構築を検討する。

▼具体的取組③ 周辺地域と連携した広域プロモーション

本市のみだけでなく、県内の周辺市町村や近隣県の主要観光地と連携し、広域での周遊を促すルートの設定や情報発信を行う。

▼具体的取組④ 情報発信媒体の多様化・マスコミ媒体との連携

市や観光協会、個々の観光産業関係者のウェブサイトやSNSのみならず、マスメディア、旅行会社、交通・宿泊・飲食等の事業者と連携することで、多様な情報媒体を用いて、より広く、かつ本市を来訪する可能性が高い観光客に対して効果的に情報を発信する体制を整える。

また、観光客自身が発信する口コミを、地域の情報発信及び情報共有手段のひとつとして活用し、市民や観光客の感動や旬の情報等が拡散される仕組みの構築を行う。

▼具体的取組⑤ インバウンドに対する誘客戦略・プロモーション

外国人観光客（クルーズ船乗船客を含む）へ向けた海外市場に対する誘致プロモーションを実施する。

個別施策2 シティプロモーションと連携した情報発信

▼具体的取組① 様々な分野でのプロモーションを統一して行える仕組みの構築

観光、ふるさと納税、農水産物、移住促進等の分野ごとに個々で行っているプロモーション活動を集約し、観光ゾーニングや市場のニーズを踏まえて、市全体として統一した観光戦略プロモーションを行う。

▼具体的取組② 各分野で行う施策の目的や整合性の把握

各分野で取り組んでいる施策の目的や、方向性の整合性が取れているのか、偏りや異なった着地点を目指していないか等、関係団体や市の関係課で随時情報共有を行う。

施策の展開 3 周遊促進と滞在型観光の推進

本市が有する多数の観光地を効率的に周遊するルートの案内や、体験コンテンツ等の造成・磨き上げを推進することで、滞在時間の延長及び観光消費額の増加を図る。

また、本市を訪れる観光客の交通手段は自家用車が主体となっており、東九州自動車道開通に伴う行動範囲の拡大や、周遊性の向上を目指し、新たなモデルルートの検討を行うとともに、公共交通機関や観光バスの利用者にも配慮しつつ、市内の各ゾーン間を公共交通機関を活用して回遊促進するハード、ソフト両面の仕組みづくりを行い、本市に長く滞在する価値と利便性を創出する。

個別施策1 観光ゾーニングを面的な周遊に活かす滞在型観光の推進

▼具体的取組① 各観光ゾーンにおける拠点の整備と連携体制の構築

市内の観光ゾーンに設置する情報発信拠点において、本市滞在中の観光客に対して有益な情報を関係者が共有し、発信する体制を構築する。

▼具体的取組② 多様な観光客に対応した案内サインの充実

自家用車をはじめ、多様な交通機関・経路で来訪する観光客を対象とした、周遊ルートに沿った案内サインの整備及び観光情報の提供を行う。

個別施策2 歴史文化遺産を活用した周遊性の向上

▼具体的取組① 歴史文化遺産を活用した体験プラン検討と周遊促進

飢肥城周辺や、堀川運河を中心とする油津地区等の歴史文化遺産や、古くから残る伝統、産業遺産等を活用した体験プランを検討するとともに、本市の他の観光資源と結びつけ、市内全域での回遊性と滞在時間の延長を図る。

▼具体的取組② 歴史的資源をより深く理解するための環境整備

歴史的な施設や遺産への来訪を目的とした観光客へ向け、施設やその地域の歴史や文化、特色等を紹介し、より深く理解する環境を整備することで、満足度の向上を目指す。

個別施策3 東九州自動車道開通によるストック効果を活かした取組

▼具体的取組① 新たなIC開通による周辺地域への観光客の誘導

東九州自動車道（油津IC、南郷IC）の開通を見据えて、開通前から堀川運河や南郷大島を中心とする、油津以南地域（油津ゾーン、南郷・大堂津ゾーン）への観光客の誘導及び市内広域での周遊を促進する取組を検討し、情報発信を行う。

▼具体的取組② 油津以南地域における観光資源の磨き上げと周遊促進

堀川運河周辺の歴史文化遺産や体験コンテンツ、大堂津地区で古くから栄えた醸造蔵、南郷大島の自然の魅力等、既存の観光資源を磨き上げ、そのコンテンツを周遊の目的とするルートの構築を行い、滞在時間の延長を図ることで、周辺地域の賑わいを創出する。

▼具体的取組③ 北郷温泉を活用した北郷地区の周遊促進

北郷温泉や花立公園をはじめとする、北郷地区に点在する観光資源の環境整備と磨き上げを推進し、温泉を活用した、他の観光地との差別化となる、周遊型体験コンテンツの検討を行うとともに、東九州自動車道を利用した移動を含む市内広域での周遊促進を図る。

施策の展開 4 日南らしいおもてなしとインバウンド受入体制の強化

本市の観光が持続的に発展していくために、観光客の期待に応えること、さらに、期待や想像を超えた発見や楽しみを提供することができる観光人材を育成すると同時に、日南らしいおもてなし力の強化が求められる。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ、インバウンドの本格的な回復を目指し、観光産業関係者だけでなく、地域住民も一体となった受入体制の強化と観光活動への理解、協力体制の構築を図る。

個別施策1 インバウンド（クルーズ船乗船客を含む）に対応した受入体制強化

▼具体的取組① 観光案内板や情報発信ツールの多言語化

市内に設置されている観光案内板や、市や観光協会のHP、SNS等の多言語化を行い、外国人観光客が本市で過ごしやすい環境を整備する。

▼具体的取組② 観光産業関係者におけるインバウンド受入体制強化

観光地や宿泊施設、飲食店、公共交通機関等においても、インバウンド受入体制を強化するために、観光産業関係者やその他の事業者へ向け、多言語化等の整備に対する支援等を行う。

▼具体的取組③ クルーズ船の誘致と港湾整備

外国クルーズ船の持続的な受入のために、積極的な誘致活動を展開するとともに、国や県に対し、港湾整備について継続して要望を行う。

個別施策2 地域住民の観光活動への理解・協力体制の強化

▼具体的取組① 地域ぐるみでのおもてなしの展開

本市における観光客の滞在満足度を向上させるとともに、市民と観光客が交流する活気あるまちづくりを行うために、観光産業関係者のみならず、市や地域が一体となった日南ならではのおもてなしを提供するための体制づくりとおもてなし力向上に取り組む。

▼具体的取組② 観光産業関係者や地域住民のインバウンドへの理解と協力

インバウンドによる経済効果や受入に対する課題等について情報提供を行うとともに、観光産業関係者や地域住民との意見交換等を行うことで、市全体で理解・協力体制の強化を図る。

▼具体的取組③ 学校での観光教育の推進

本市の活性化における観光産業が果たす重要な役割について、次世代を担う子どもたちの理解を深める観光教育を推進する。また、地域の風土や歴史・文化に加え、平和に関する学習を充実させることで、郷土への理解と誇りを育むとともに、観光客に対する思いやりとおもてなしの意識醸成を図る。

施策の展開 5 持続的な観光産業の推進と観光基盤整備

観光産業が本市の経済に継続的かつ安定的に寄与する産業として発展するために、観光人材の育成や観光産業の地位向上・環境改善に取り組むほか、観光協会の機能充実を図り、関連する産業との連携を強化する。

あわせて、観光地の安全・安心・快適性向上のための基盤整備を通じて、長期的な観光産業への発展を支援する。

個別施策1 観光人材の育成

▼具体的取組① 観光産業を支える人材の育成と連携体制の強化

本市の観光を持続的に発展させていくため、国内外の観光客が満足するサービスを提供し、効果的な情報発信を実現できる人材の育成を推進するとともに、これらの観光人材を組織化することで、迅速かつ効果的な活用が可能な体制を検討する。

▼具体的取組② 語り部・ボランティアガイドの育成とネットワーク化

本市の観光資源の魅力を最大限に伝達するため、観光ガイドの充実や語り部の育成とともに、人材のスムーズな活用を可能とする仕組みの構築を検討する。

個別施策2 観光地の価値保全と多様な観光客へ配慮した持続的な観光地づくり

▼具体的取組① 観光客にとって安全・安心・快適なまちづくり

本市は、海沿いに位置し、南海トラフ巨大地震やこれに伴う津波、台風や大雨、それによる土砂災害等に見舞われる可能性が高い地理的特性がある。災害・事故の発生時や観光客が病気や怪我等に見舞われた際に、観光客に対して適切な対応を行う体制を整備する。また、高齢者や障がいのある方等の要援護者が快適に過ごせる観光地づくりに取り組む。

▼具体的取組② 観光入込統計の充実並びに観光客・市民意識調査の定期的実施

観光地によるアンケート調査結果や、人流データ等を活用し、本市の観光客の量的変化と動向を定期的に把握することで、多様な観光客のニーズを的確に捉え、今後の観光戦略の策定に役立てる。また、観光客のみならず、市民の本市における観光に対する意識を定期的に計測することによって、観光産業の浸透を図る。

個別施策3 他産業や関係団体と連携した稼ぐ観光産業の発展

▼具体的取組① 観光協会の機能充実

本市の観光を官民一体となって推進するにあたり、地域の観光プラットフォーム機能の役割を観光協会が担うことが期待される。本市の観光行政や観光産業関係者との密な連携と観光推進に資する様々な事業の実施を通じて、組織基盤を強化するとともに、観光客や市場に対する窓口機能の充実を図る。

▼具体的取組② 観光産業と他産業との連携強化

本市の観光産業は、水産物や農産物、お土産となる物産、商工業等における体験プログラム等、様々な産業と関連し成り立っている。本市の観光産業発展の効果が市内の他産業へ波及する効果を最大化することを目的とし、市内の様々な産業関係者の観光産業への理解を促進し、連携体制を強化する。

▼具体的取組③ 地元の飲食店や事業者、関係団体との連携

飲食店や宿泊施設等との連携により、観光客の消費意欲の向上を図り、観光消費額の増加を目指すとともに、観光協会や商工会議所等の関係団体を中心に、地域一体となった稼ぐ観光地づくりを推進する。

▼具体的取組④ 交通拠点から回遊させる仕組みづくりと二次交通の強化

公共交通機関との連携により、JR各駅、バス停等から観光地、宿泊施設等までの移動利便性を高め、観光ゾーンを超えた周遊を促す取組を促進する。

個別施策 4 観光客のニーズに対応した観光施設等の受入基盤整備

▼具体的取組① 観光施設の継続的な環境整備

観光客が訪れた際に、常に快適で過ごしやすい施設を保ち、危険な箇所や修繕が必要な箇所がある場合は迅速な対応を行う。

▼具体的取組② まち歩きの実践及び安全性の確保

個々の観光資源や二次交通の拠点、情報発信拠点等を結ぶまち歩きルート上の沿道植栽や花づくり、道路・歩道、案内看板等の快適性・安全性を調査し、整備を推進する。

▼具体的取組③ 情報のデジタル化及びキャッシュレスへの対応

国内外の観光客や地域住民にとっても利便性の高い環境を整備するために、観光情報のデジタル化を推進するとともに、キャッシュレス決済の普及を促進する。

3-5 推進体制

(1) 推進体制

本計画で示した本市における観光の将来像と基本方針に基づき、施策を展開していくために、グローバルな視点で見据えつつ、一方で観光業界だけでなく他産業、環境、まちづくり、市民生活等、他の分野の取組と連携した横断的な推進体制が求められる。

① 行政内組織の横断的連携機能の充実

行政内においては、観光・クルーズ課が観光産業関係者との窓口機能の役割を担いながら、庁内関係部課との連携によって総合的な施策の推進と民間支援の充実に努める。県や周辺市町村等との調整・連携も重要であり、企画調整担当部局との密な連携が必要である。

② 民間による推進体制の確立

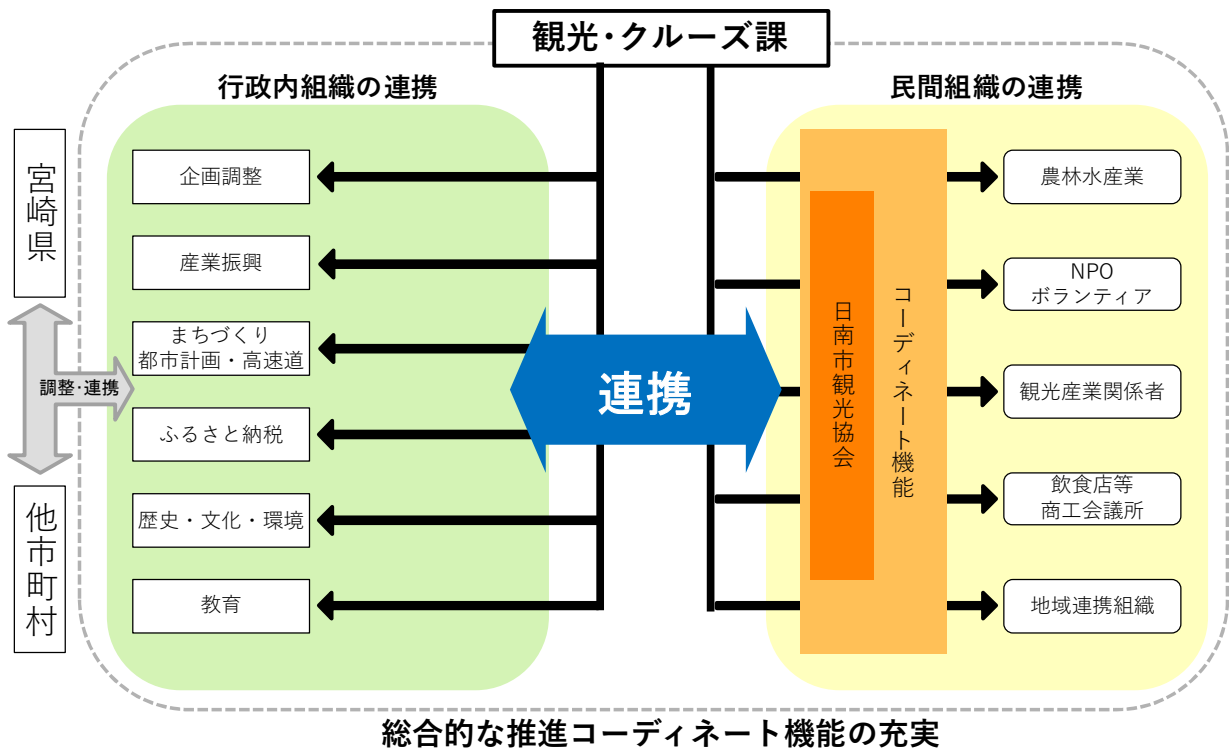
民間による観光の推進体制においては、観光協会の機能を充実させ、観光分野以外も含めた民間団体・企業との連携を深めることが重要である。特に、プロモーション活動や新規コンテンツの共同開発や流通等、民間事業者同士が連携すべき取組に対するプラットフォームとしての機能を充実させることが期待される。

こうした観光地における民間のプラットフォーム機能の確立のためには、持続可能な、自立した財務基盤と、これらの活動が可能な人材の育成と活用が不可欠であるが、収益事業の実施検討も視野に入れ、本市の観光を推進することが可能な組織体制の検討が求められる。

③ 官民の密接な連携による推進

行政内と民間の綿密な横断的連携体制を確立することで、官民が観光における将来像を共有し、それぞれの役割分担を踏まえた上で計画の実現に取り組む。

(2) 連携機能イメージ



前項に挙げた、5つの施策については、観光・クルーズ課並びに観光協会や商工会議所及び観光まちづくりや啓発・教育等の側面で強い連携が求められる市の他部課が中心となって取り組む。但し、地方行政の主たる役割は事業推進の大きな方向性決定等の舵取りや、広域をつなぐネットワーク構築のサポート等が中心になると考えられ、特に本市の新たなビジネスの開発や体験プログラム・物産等の商品開発に関しては、観光産業のみならず、市内の各種の産業を担う民間企業の取り組みが期待される。

卷 末 資 料

海幸、山幸、人幸。



日南には、幸がある。

【編集・発行】

日南市産業経済部観光・クルーズ課

日南市中心通一丁目1番地1

[TEL] 0987-27-3315

[FAX] 0987-27-3571